

放課後子ども教室だよ

福沢たのしい教室訪問

令和2年11月20日(金)訪問

○開設年度	平成19年	○参加者	対象学年：1～6年生
○活動場所	羽山の森美術館（旧福沢小学校）	○登録児童数	19名
○実施回数	131回	○登録スタッフ	8名 ※安全管理員・活動指導員の兼務
○実施時間	3時間 火～金曜日 (15:00～18:00)	○活動内容	宿題 運動 自由遊び 季節行事等

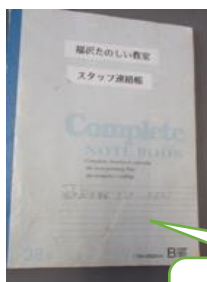
温かな雰囲気の中で

福沢たのしい教室に参加している子どもたちは、川俣小学校に通学しています。学校が終わると、スクールバスに乗って羽山の森美術館にやってきます。19名の子どもたちが登録していますが、通常は、7～9名ほどの子どもたちがたのしい教室にやってくるそうです。

訪問当日は、NPO かわまたスポーツクラブのスタッフが来てくださっていて、子どもたちの活動をサポートしていました。子どもたちは、おにごっこやタイヤとびが大好きで、夢中になって取り組んでいるそうです。校庭には、クミヤやイチヨウの木があります。子どもたちはクミヤやギンナン拾いを楽しむこともあるそうです。豊かな自然環境の中で、のびのびと遊ぶ子ども達を、スタッフの方が温かい目で見守っていました。

福沢たのしい教室では、例年「季節の行事」として、ひな祭り、お月見などを行っています。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で、月見だんご作りなど、実施できない行事もありました。今年は、季節感を味わうことができるように、七夕飾りを作り、切っていただいた竹にみんなで飾って楽しんだそうです。

スタッフのみなさんは、「保護者の方が忙しくしているので、ここで子どもたちが過ごす時間を作ってあげることで、子どもたちの居場所を作り、保護者の助けになれば…」という思いを持っています。子どもだけでなく保護者の目線に立ち、温かい雰囲気子どもたちに関わってくださっています。



このノートでスタッフ間の共通理解を図っています。



ポイント

公民館との連携体制

活動場所である羽山の森美術館には、福沢公民館としての機能もあります。福沢たのしい教室では、福沢地区の文化祭に子どもたちの作品を出品しています。学校が短縮時程の時には、子どもたちは学校から福沢公民館に来てお弁当を食べ、時間になると建物の中の「たのしい教室」にやってきます。公民館は子どもたちの「第2の家」となっています。

たのしい教室と公民館とが連携して、子どもたちが安心して過ごせる居場所となるとともに、子どもたちの表現活動を披露する場所を設けています。

コロナ禍における活動のヒント

6月に学校が再開された後も、コロナ禍の中でのたのしい教室を再開させてよいものかと、コーディネーターとスタッフはとても悩んだそうです。そんな中でコーディネーターが保護者に話を聞いたところ、「子どもたちが再開を楽しみにしている」「手洗いうがいなどの感染症対策がなされていれば大丈夫だから、再開してほしい」という意見をいただいたそうです。

そこで、福沢たのしい教室ではスタッフで話し合い、川俣町の中では比較的早い時期にたのしい教室を再開しました。保護者の方に「福沢たのしい教室の再開について」というお便りを発行したり、保護者の話や考えをよく聞いたりして、共通理解を図りながら活動を行っているということでした。

